

## 日本の重要湿地 5 0 0

## 重要湿地選定の目的

湿地保全を求める国民の要請の高まりや、平成 11 年のラムサール条約第7回締約国会議(開催地:コスタリカ)における登録湿地倍増の決議、生物多様性の保全上重要な地域の適切な保全を進める旨記述された新環境基本計画(平成 12 年 12 月 22 日決定)及び現行生物多様性国家戦略(平成7年 10 月 31 日決定)を受け、最新の科学的・専門的な知見と情報に基づく湿地保全の基礎資料を得るとともに、開発計画等における配慮を促すことなどを目的として、我が国における保全上重要な湿地の選定作業を実施した。(平成13年12月)

## 重要湿地選定基準

基準1	湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟・マングローブ林、藻場、サンゴ礁のうち、生物の生育・生息地として典型的または相当の規模の面積を有している場合
基準2	希少種、固有種等が生育・生息している場合
基準3	多様な生物相を有している場合
基準4	特定の種の個体群のうち、相当数の割合の個体数が生息する場合
基準5	生物の生活史の中で不可欠な地域(採餌場、産卵場等)である場合

## 1. 西表島南西部海域および河口域

生物群	生育・生息域	選定理由
ウミガメ	西表島南西部海域	八重山諸島でも最もアオウミガメが多く生息する海域で、湾奥の藻場を餌場としていることが解っている。自然度も高い。西表島の南岸、特に通称タカハマ、ワカレハマと呼ばれている砂浜は、南西諸島では最もアオウミガメが高密度で産卵する砂浜である。また、道路や集落等は全くなく極めて自然度の高い場所だと思われる。その沖合いには、礁原が広がっている。
サンゴ	崎山湾	種の多様性・自然度が高い。
サンゴ	網取湾	種の多様性が高く、希少種を含む。
海草	崎山湾	ウミシヨウブの純群落。
海草	網取湾	リュウキュウスガモ、リュウキュウアマモ、ウミシヨウブの群落。
マングローブ林	アヤンダ川 ウダラ川	メヒルギ、オヒルギ、ヒルギダマシ、ヒルギモドキの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林の地理的希少分布地。マングローブ林(生態系)の代表的・固有的な分布地。マングローブ林生態系の多様性が高い。
マングローブ林	クイラ川 仲良川	メヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギダマシ、ヒルギモドキの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林の地理的希少分布地。マングローブ林(生態系)の代表的・固有的な分布地。マングローブ林生態系の多様性が高い。

## 2. 浦内川

生物群	生育・生息域	選定理由
マングローブ林	浦内入江(浦内川)	メヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギダマシ、ヒルギモドキの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林の地理的希少分布地。マングローブ林(生態系)の代表的・固有的な分布地。マングローブ林生態系の多様性が高い。
甲殻類	浦内川マングローブと流入河川	浦内川の汽水域には周縁性魚類や甲殻類が多く、淡水域には希少種や危急種に該当する甲殻類やハゼ類が生息しているため、流域全体が重要。特に、マングローブ水路には南方系のテッポウオやウラウチフエダイなど、河川上流部には河川陸封性のシヨキタテナガエビやコツノヌマエビおよびヤエヤマサワガニなど、それぞれ貴重種が生息している。
底生動物	浦内川河口	マングローブ湿地固有の底生動物が豊富。ノコハオサガニが潮間帯で見られる日本唯一の場所。

## 3. 船浦湾と流入河川

生物群	生育・生息域	選定理由
マングローブ林	船浦湾	メヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギダマシ、ヒルギモドキ、ニッパヤシの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林の地理的希少分布地。マングローブ林(生態系)の代表的・固有的な分布地。マングローブ林生態系の多様性が高い。
甲殻類	船浦湿地と流入河川	船浦湾には大小3つの河川(西田川・ヒナイ川・ヤッサ川)が流入し、マングローブがよく発達している。特に、ニッパヤシは船浦が分布北限になっている。その林内・水路・外干潟には熱帯系の魚介類が多く、満潮時にはサメやエイの仲間も回遊してくる。林内やその周辺には国や沖縄県のRDB記載の5種(マングローブヌマエビ・シモフリシオマネキ・ヒラモクスガニ・イリオモテマメコブシガニ・ヤシガニ)が生息している。また、流入河川と周辺陸域には国や沖縄県のRDB記載の5種(コツノヌマエビ・シヨキタテナガエビ・ヤエヤマサワガニ・ヤエヤマヤマガニ・ヤシガニ)や天然記念物の4オカヤドリ類(オカヤドリ・ナキオカヤドリ・オオナキオカヤドリ・コムラサキオカヤドリ)も生息しているため、流域全体が重要。
底生動物	船浦	広大なマングローブ湿地を持ち、湿地内にはキバウミニナが高密度に生息。干潟域にはカニノテムシロやタテジマコムシが多数生息。

## 4. 西表島山地水域および平地部天然陸水域

生物群	生育・生息域	選定理由
爬虫両生類	西表島山地水域及び平地部天然陸水域	コガタハナサキガエル(日本固有種)、オオハナサキガエル(日本固有種)、ヤエヤマハラブチガエル、ヤエヤマヒバ(日本固有種)、セマルハコガメ(日本固有種)の生息地。
淡水魚類	西表島の河川	ナガレフウライボラなど亜熱帯性淡水魚類の多様性が高い。特に浦内川ではテッポウオ、ウラウチフエダイが生息。また、大見謝川、仲間川の上流にはツバサハゼが生息。
昆虫類	西表島山地水域	渓流性および湿地性の昆虫が多様で、質・量とも豊富である。ヤエヤマハナダカトンボ、ヒナヤマトンボ、イリオモテミナミヤンマ、アシトカタビロアメンボ、イリオモテケシカタビロアメンボ、フタイロコチビミズムシ、ヒラシマナガレカタビロアメンボ、ケシミズカメムシ、トゲミズギワカメムシ、アトホシヒラタマメゲンゴロウ、ヤエヤマコオナガミズスマシ、ヤエヤマアシナガミゾドロムシなど多くが八重山諸島固有の水棲昆虫類が豊富に生息している。ヒメシヨクバエ、メダカチビドロムシなど水辺の種、ベニジョウカイ、ヒメヤツボシハンショウなど森林性の種をはじめとして、多くの種が豊富に生息する。

## 5. 由布島および干潟

生物群	生育・生息域	選定理由
マングローブ林	由布島および干潟	メヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギダマシ、ヒルギモドキ、マヤブシキの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林の地理的希少分布地。マングローブ林(生態系)の代表的・固有的な分布地。マングローブ林生態系の多様性が高い。

## 6. 後良川,相良川,前良川

生物群	生育・生息域	選定理由
マングローブ林	後良川 相良川 前良川	メヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギダマシ、ヒルギモドキ、マヤブシキの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林の地理的希少分布地。マングローブ林(生態系)の代表的・固有的な分布地。マングローブ林生態系の多様性が高い。
甲殻類	後良川・前良川 マングローブと流入河川	両河口のマングローブ域にはシオマネキ類・コメツキガニ類・イワガニ類・ワタリガニ類・オウギガニ類・ヤドリガニ類・アナジャコ類などほとんどの汽水域性のカニ類が生息している。特に、河口部の外干潟では、干潮時にヒメシオマネキとミナミコメツキガニの大群が見られる。このマングローブ湿地は、古見集落の民謡でシオマネキ類・クマドリオウギガニ・ノコギリガザミ類などを歌った「ヤクジャマ節」の発祥の地でもある。また、流入河川には、RDB記載の希少種のエビ類(コツノヌマエビ・ミナミオヌマエビ・シヨキタテナガエビ)やサワガニ類(ヤエヤマサワガニ・ヤエヤマヤマガニ)が生息している。
底生動物	仲間川河口 後良川河口 前良川河口	日本で種の最大級のマングローブ湿地を擁する。マングローブ湿地固有の底生動物の種の多様性大。

## 7. 大正池付近

生物群	生育・生息域	選定理由
昆虫類	大正池付近(大富林道)	ホソアカトンボ、オオハラビロトンボ、キイロハラビロトンボ、コフキオオメトンボ(1996年以降定着か?)、オオメトンボ、アメイトンボ、ミナミトンボ、リュウキュウカトリヤンマ。

## 8. 仲間川

生物群	生育・生息域	選定理由
マングローブ林	仲間川	メヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギダマシ、ヒルギモドキ、マヤブシキの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林の地理的希少分布地。マングローブ林(生態系)の代表的・固有的な分布地。マングローブ林生態系の多様性が高い。国天然記念物。
甲殻類	仲間川マングローブと流入河川	仲間川やその支流にはRDB記載の3希少種(コツノヌマエビ・シヨキタテナガエビ・ヤエヤマサワガニ)が生息しているため、流域全体が重要。また、近年、仲間川支流から新種らしきカワリヌマエビの一種も発見されている。